



熊野市七里御浜（世界遺産熊野古道松本峠より）

目次・主な内容

■ 定時会員総会 ● 役員人事	2	■ リレー随想 ● 団塊の世代と老後の生活	11
■ 特別講演会	4	■ 暑中見舞い	12
■ 日本経団連定時総会	6	■ 『みえ産業・雇用創出コンソーシアム設立』	16
■ トップインタビュー	8	■ Window事務局	19
■ 協会事業活動報告	10	■ 業務日誌	20

平成19年定時会員総会開かれる

本会は去る6月4日(月)、プラザ洞津にて定時会員総会を開催、会員73名出席、平成18年度事業報告・19年度事業活動計画、同収支予算案・役員人事等について審議が行われ満場一致で承認されました。

開会宣言に続き、故藤井前経協会長、故安永経協副会長両氏を偲んでの黙祷が行われ、その後、会長から挨拶があり、引き続き議長として、以下の通り議案の審議が行われました。

- 第1号議案 平成18年度事業報告
- 第2号議案 平成18年度収支決算書承認及び会計監査報告の件
- 第3号議案 平成19年度事業計画(案)審議に関する件
- 第4号議案 平成19年度収支予算書(案)審議の件
- 第5号議案 役員人事に関する件
- 第6号議案 その他(報告、連絡事項)資料について



会長挨拶

会長
奥田卓廣

本日は皆様には大変ご多忙のところ、平成19年度定時会員総会にご出席を頂きまして誠にありがとうございます。早いもので昨年のこの総会で今は亡き藤井会長の後を継いで、一年が経過し、この間、会員の皆様には格別のご理解とご支援を賜わり厚くお礼を申し上げます。

さて、我が国の経済は企業収益の改善を背景とした旺盛な設備投資、雇用環境や所得の改善が見られるなど、地域格差、企業間格差などの不均等はあるものの全体としては回復基調で推移し、ようやく未来への明るい展望を持つことができる状態になって参りました。

当県では生産活動の活性化や設備投資の好調を受けて拡大基調にあると観ていますが、一方で県内経済の比較を観れば、北勢、中勢地区では県内総生産の四分之三を占めるなど偏りがあり、北高、南低の格差が存在していることも実情です。当会の今年度を振り返りますと「就職情報交換会」は大学、工専短大から多数の参加があり好評を得ておりますし、若年者の雇用問題につきましても「インターンシッ



プ」が大きな役割を果たし全国トップレベルでの参加会社600社と学生450名のマッチング成果を生み出しているところです。

また、本日、話があると思いますが、労使就職支援機構が18年度に「地域雇用政策研究会」を設立し調査研究を進め、1月に「時代の変化に対応する三重県地域雇用政策」を取りまとめ、雇用を創出するための仕組み提言として「みえ産業・雇用創出コンソーシアム」を県知事、労働局長に政策提言を実行したことは画期的な成果ですし、近々、日本経団連の機関紙(タイムス)に紹介されることになっております。

これからも少子高齢化時代に向けまして、各社の労働問題の解決や情報提供、交流の場としての役割を高め、会員企業の発展に尽して参りたいと存じますので、引き続き皆様の心強いご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

経協新役員

- 会 長 奥田卓廣
三重交通(株)取締役会長
- 副会長 菊川靖之
(株)菊川鉄工所代表取締役会長
- 副会長 久保幸夫
神鋼電機(株)伊勢製作所所長代理兼総務部長
- 副会長 戸澤周純
(株)東芝セミコンダクター社四日市工場工場長
- 副会長 小林長久
日本トランスシティ(株)代表取締役社長
- 副会長 高崎征輝
(株)安永代表取締役社長
- 副会長 黒川正機
東邦ガス(株)執行役員(三重駐在)
- 専務理事 横田正典
三重県経営者協会事務局長

経協専務理事交替挨拶



専務理事
横田 正典

平成19年度経協定時会員総会におきまして、専務理事に、ご推挙いただきました横田正典でございます。全国的にも稀な長期間専務理事を務められた初代専務、故南 岩男氏（39年）第2代目、平松 敏氏（22年）の後を継いで、経協専務理事の任に当る責任の重大さに身の引き締る思いでございます。

さて、巡航速度で戦後最長の景気拡大を続けている我が国経済は人口減少と少子・高齢化、国際競争の激化、地域経済の不振による格差など、様々な課題を抱えています。人口減少下での新しい成長を目指しています。

労働力人口減少への対策の鍵は個々人の能力を高め、生産性を向上させることであり、多様な人材を育成するためには各種教育機関、産業、行政、地域が連携、協力して人材育成に取り組むことが必要であり、また、高齢者や女性、さらには能力発揮の場を得ていない若者などが十分に働けるような環境整備も急がなければなりません。さらに地域に目を向け、中小企業を中心とした地域の資源を活用したブランドの発掘と浸透や人材育成を支援し新たな雇用を創り出すことも重要であります。

このような情勢の中で最も大切な経営要素である「人」の問題を専管事項としています。経営者協会も時代の変化や要請に応じた改革を行わなければならないと認識を新たにしているところです。

これからは、変化する経営、労働環境への対応を基軸にして日本経団連、行政、県内経済団体及び労働団体との緊密な関係を維持しつつ、会員企業の経営の安定と発展、産学連携の促進、県内産業の活性化、地域経済の振興にと社会的使命に努めて参りたいと思っております。

会員みなさまに信頼と共感を持たれる協会として、これからも事務局一同、全力を尽して参りますので、会員みなさまの変わりませぬ、ご支援、ご協力をお願い申し上げ就任のご挨拶とさせていただきます。



顧問
平松 敏

昭和33年、三重県経営者協会に入職し、以来、49年余月勤務、昭和60年7月1日からは第2代専務理事として働くことが出来ましたことは大変幸せであったと思っています。

とりわけ、戦前・戦後を通し、我が国の労働問題一筋に、その大道を範された初代専務理事、南 岩男先生に永年に亘り仕え、薫陶を受けたことは、今日の私を創ってくれた大恩人で人生での最大の出会ひであったと述懐しています。

以来、経協創立62年目を迎えますが、この間、日本も三重県も大きな変遷を遂げたように、当協会の歩んだ途は決して平坦ではございませんでしたが、日本経団連を始め、歴代会長・役員・会員・関係者各位のご支援、ご協力を賜わり、今日を迎えることになりました。

これからも、未来永劫、種々の出来事、新たな変化とそれらの課題が待ち受けているであろうかと思いますが協会としましては、かかる事態に、いち早く対応し、会員みなさまに役立つサービスとパートナーとしての役割を自覚しつつ、より一層、努力をしていただけるものと確信をしているところです。

我が国は人口減少と少子高齢化、グローバル化へと大変動時代を迎えることとなりますが、経営における「人」の役割の重要さは「不変」であります。

「人材こそが企業発展の根源である」との基本理念とその実践はこれからの経営者協会の要であり、使命であると言えますので、引き続き変わらませぬ、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

多年にわたりましてみなさま方のご支援、ご交誼を心から深謝し謹んでお礼を申し上げますと共に、会員会社の益々のご発展とみなさま方のご健勝、ご活躍をご祈念を申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

特別講演……「安倍政権の課題—どうなる天下分け目の参院選」(要旨)

政治評論家 長野 祐也氏



総会のあと、特別講演会として「安倍政権の課題—どうなる天下分け目の参院選」と題しまして、政治評論家長野祐也（ながのすけなり）氏よりお話を伺いました。

ご紹介をいただきました長野です。

三重県経営者協会には4回目のお招きをいただき、我々評論家仲間では同じ所に2回以上、声がかかると一人前だと言われています。私の出身は鹿児島で議員時代は中曽根派に席を置き、伊勢出身の藤波先生は兄貴分がよく、ご指導をいただきました。何れ藤波内閣になれば官房長官位にはと期待をしていましたが、思いがけないことで、ああいう結果になり残念に思っております。又、ご当地の川崎先生は同期の当選で日頃、久しくさせていただいているところです。

本日はみなさんもお注目をされている「あと50日余りとなった参院選とその争点」について話をしてみたいとおもいます。まず、結論を先に申し上げると本当にきわどい勝負になるとみています。松岡さんの問題と年金漏れがない前、マスコミは与野党過半数割れかと言ってましたが、私たち評論家の調査分析では民主が勝つのは岡田さんの三重と小沢さんの岩手ぐらい。14議席自民が勝って民主は2つ、残りは互角、五分五分にいけば自民が勝つという流れで自民党が完全に有利とみていました。

そこで、2つのこと（松岡問題・年金）がおきて内閣の支持率が共同通信によると35%、しかも私が注目するのは、現時点で参院選に投票する先を聞いていることで民主が28%、自民が26.5%であり、またどういふ政権が望ましいのかでは、これまた民主党中心の政権を望む人が36%、自民中心が35.7%と

なっていることです。

これは安倍内閣になって初めてのことであり、ここにきて松岡さんの自殺が参院選に与えた影響が70%近くあり、政治と金の問題についても総理の取り組みが評価できないとのことである。当初、安倍さんがこれを乗り切って長期政権になるとみていましたが、あまりにも松岡さんを庇いすぎた。与党の支持者からも安倍さんを見る目が厳しくなっており任命権を果たしていないとの風当たりが強くなっている。

安倍さんが選ばれたのは小泉さんほどではないけど国民に人気がある「選挙の顔は安倍しかない」、麻生や谷垣では選挙に勝てない。そこで自民党が負けた場合、どういう理由が考えられるかは、松岡と年金がどこまで尾を引くか、投票日まで50日余りあるがこれが長いのか、短いのか、投票日には忘れられているのかであり、尾を引くと自民党にとっては厳しいことである。安倍さんが政治家になった最大の理由は憲法改正である。小泉さんの改革は金の話であり国家の基本をなすものでなかった。改正の手続き法案では国民投票法案が成立したが向こう3年間は発議できないことである。国会で発議するには国民の2/3の賛成が必要であり憲法改正を参院選の争点にすれば、民主党をどんどん反対に追い込んでしまい、今後も民主の協力は得られなくなり、憲法改正は裏目に出る。それよりも小泉さんが行った地方切り捨ての弊害と格差問題の方が国民には関心が高い。もうひとつ、6月20日過ぎには住民税の負担が増える。これは一人一人のことなので、これも選挙に及ぼすことになる。小沢さんが国会に顔を出さず一人区を重点に回っている。これの成果がどう出るか。3年前は岡田代表対小泉であった。この時、



小泉さんは年金未納、人生いろいろ等、驕りがあったのに、一方は生真面目な岡田さんが新鮮に映って自民49、民主50であった。野党が多いことをよく猪鹿現象といい、地方選挙と統一選挙が重なるのが12年に1回あり、この年は地方の議員が動けないのできついことである。そこへ、もってきて市町村合併が進んだことで減った議員の7～8割は保守系であり、これは自民にとってきつい。もう1つは国民新党の議席はもともと自民党の議席である。じゃ、そこで安倍さんが負けたら退陣かですが、私は基本的には衆議員の選挙は政権選択の選挙であり、参院選で負けたから総理大臣をやめるのはおかしい。過去に宇野さん、橋本さんは退陣をしたが、そこで小泉さんが助け舟を出して参院選で負けてもやめることはないというメールを送っている。それならば次期候補をみると麻生さんは出たいでしょう。本も2冊書いているし、英語もペラペラで外人コンプレックスも全くない。私も何回か外遊しましたが専門的な英語もでき、さすが吉田茂さんのDNAを引いており、楽しみな総理になると思うが、ただ、安倍さんが負けたら、この2人は二人三脚なので連帯責任じゃないと言われることであるが、安倍さんが参院選を乗り切れば最長6年の長期政権は確実なことです。一方、民主党が負けるとやっぱり連合だのみなんですよ、民主党は地方に行くとも弱さがあり投票率が低くなれば公明党が頑張るので自民党は有利といえる。昨日、今日の講演について自民党の幹部と話したら2つの事件が1ヶ月あとにあれば参院選はふっ飛んでおり、幸いにして、まだ50日ある、年金もいろんな誤解がある。私も厚生関係を専門にやってきたが年金が消えたというのはうそで、年金受給権は消えていない。つまり一年がかりであたり、作業をして年金受給権に説明責任を果たすことである。それから次は、党首力です。私も小沢さんのお伴したことがあり年2回、私の番組にも出てもらっているが、テレビで聞いている人は回りくどい話し方にイライラする。安倍さんの方が剥きになって言い返しており、討論では安倍さんの方が上でしょう。やっぱり若さですよ。

私は安倍晋三大化け論者ですよ。私のラジオ番組で最初に出ていただいた時は森内閣の官房長官であった。質問をすると緊張して話をされていたが、その後、小泉内閣の官房副長官そして幹事長、官房長官となり5～6年で大成長をした。永田町で多くの政治家を見ているが、こんなに大化けした政治家はいない。

今は総理として慣れないから未熟だけれども、こ

の人は必ず大化けすると思っている。国防省をつくり昇格をさせ、教育基本法を成立させ、日中関係もまあまあの関係にした。いろんなことを考えると政治は結果責任である。

また、小沢さんの目のつけ所はよい、安倍さんが憲法改正だと大上段をふりかざしているが、小沢さんは生活維新であり身近な話をするのは選挙向けにはよい。小沢さんも65歳、最後の勝負、負けたら責任をとらせるという黨員も多い。鳩山、菅、横路の待望論もあるが、岡田さんがよい、国会にはきちり出て、きちっと質問をする。自民党は64議席とればよい。(自民51、公明13)ですが自民50を超えるのは大変なことである。国民新党は47・48(民主・自民)とみており、我党と組まなければ政権は維持できないと言っている。

もうひとつは投票率を上げれば民主党、下がれば自民党、今回の選挙での安倍さんは憲法改正であり、次の問題は集団的自衛権である。日本を守り、国益を守るためには何をなすべきか……今、守ってくれるのはアメリカである。一方、民主党の争点は年金であり、私は社会保障の予算を削るのは限界と思っている。

さらに、政権が交替する時は経済・景気が悪くかわる時でもあり、景気がよければ政治の交替は過去にない。外交では米国との関係が一番大切、アメリカを番犬に国防にかかる予算を減らして日本の復興にかけてきた経緯があり、米国との関係は重要なことである。

もうひとつは中国とどうつき合うかのメッセージを出すべきかであり、台湾も中国のものなので統一を考えており、私は中国からみて、アジアの盟主は中国になりつつあり、アメリカと友好的関係を維持し、中国とは商売の関係で友好を保つことにつきて言える。

私は大学の時、私設秘書となり、45～46年政治を覗てきましたが、昔の人は風圧とオーラを感じた。今は何かサラリーマン化しており、腹の中に落ちてくる重い話がない。二世、三世議員が多くなりすぎスケールの大きな政治家がいなくなった。

どうか、みなさん、今選挙は今後の日本にとって重要な方向を決めることであり、その動向に注目をして頂くことを申し上げ、私の話を終らせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。(文責事務局)



日本経済団体連合会・ 「第6回定時総会」開会挨拶

(社) 日本経済団体連合会会長 御手洗 富士夫

我が国として大きな動きの一年

本日の定時総会をもちまして、会長として2年目の活動に入るわけではありますが、この一年を振り返りますと、日本経済、そして経団連にとりましても、大きな動きのあった一年であったと思います。

昨年9月に発足した安倍内閣は「成長路線」を旗印に掲げ、発足して一年にも満たないなかで、地方分権、教育基本法、公務員制度改革はもちろん、防衛庁の省昇格や国民投票法など、国の根幹となる諸制度の改革に取り組まれ、数々の成果を挙げられました。

加えて、電撃的な訪中を実行し、「政冷経熱」といわれた中国との関係改善に取り組み、実に6年半ぶりとなる中国首相の来日と日本での首脳会談を実現いたしました。

経済面においても、雇用情勢は堅調に推移を続け、個人消費にも回復の動きが見られております。世界経済の拡大により輸出は増勢を強める見込みであり、「成長路線」の成果が、国民の目に見えるかたちで具現化しつつあると考えております。

この国のかたち新ビジョン「希望の国日本」

こうしたなか、私にとりましても、大変刺激的な一年でありました。企業経営の現場から離れて、政治や行政と直接向き合う活動は、まさに挑戦に次ぐ挑戦でございました。

技術開発、地域活性化、税制、経済連携協定、社会保障、労働市場などは、この国の輝く未来に向けて、避けては通れない課題であります。これらの課題に全身全霊を傾けて取り組みました。

そして、その一つの成果として、本年1月には新ビジョン「希望の国、日本」を世に問い、私なりのこの国のかたちをお示ししたわけであります。

その根底には、「誰もが挑戦の機会を与えられる社会、努力して成果をあげた人が報われる社会でなければならない。そうした真に公正・公平な社会システムをつくりあげていくことが、国際競争力を持ち続けるために不可欠である」という哲学を貫いております。

日本がとるべき道「世界に目を向けた成長路線」

世界を見渡しますと、情報通信技術や輸送手段の高度化、また経済連携協定の拡大などにより、グローバル化がさらに加速し、世界はネットワーク化された大きな市場になろうとしております。

日本も、ここで遅れをとるわけにはまいりません。外に向けては、ドーハラウンド交渉の推進を通じたWTO体制の強化に引き続き取り組むとともに、アジア太平洋地域とのネットワーク形成を加速させ、また、内に向けては、聖域を設けることなく国内の構造改革に取り組むことが求められます。

私は、経団連会長の立場で、この一年間に、アジアを始め、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア、中東の計14カ国を訪問し、各国の政治・経済の情勢などにつきまして、首相や経済閣僚、経済人と直接話し合う機会を持ってまいりました。

こうした話し合いを通じて、私は、世界同時好況というきわめて稀な現実を実感するとともに、競争力強化に邁進する各国首脳の強い意志と姿勢に、国の未来を考える座標軸をみる思いがいたしました。

そして、日本がとるべき道は、世界に目を向けた「成長路線」であるという考えを、一層強くいたしました。

成長力強化と効率化は車の両輪

一方、国内においては、人口減少社会の到来が現実のものとなっております。国民の将来不安を払拭するためにも、引き続き成長力強化と歳出の効率化・合理化を車の両輪として、成長の持続可能性を確保していかなければなりません。

その際、経済の活力を高め、成長の牽引車となりうるのは、民間の活力であります。

経済界としては、生産性のさらなる向上やワークライフバランスの実践に努めるとともに、日本が強みをもつ製造業の分野での国際競争力をさらに強化するため、先端技術開発に取り組まねばなりません。製造業以外の分野においても、一層の生産性向上に努めるとともに、高品質のサービスを提供することが、強く求められているものと考えております。

生産性の向上と裏表の関係にある雇用問題も、将

来のために、いま、取り組まなければならない重要課題であります。

保育サービスの充実などで子育てに勤しむ女性が社会参加しやすくすることや、就職氷河期と言われる時代に不幸にして職を得られなかった人々への就労支援などが早急に求められております。

こうした取り組みは、この国の最大の課題である少子化対策にもつながるものであり、私としても重点的に取り組みたいと考えております。

自らの責任と権限のもとに広域経済圏の創出

昨今指摘されている地域間格差に関しましては、国民に豊かさを実感してもらうためにも、地域の自立と活性化を基軸とする効果的な施策を早急に打ち出していかねばなりません。

私は、この一年、全国各地の経済界と意見交換の機会をもち、生の声を聴くことに努めてまいりました。

好調な地域もあれば、頑張っているのに苦しい地域もございました。また、地域全体としては回復傾向にあっても、景気の良い県もあれば、回復が遅れている県もあるというのが現実でありました。

各地域がそれぞれの特色を活かしつつ、自らの責任と権限のもとに広域経済圏の創出を目指して取り組む。それこそが、地域の人々の活力を引き出し、日本全体の活力につながるはずであります。

そこで、私の持論である道州制の導入を投げかけてみましたところ、多くの方々から前向きな反応を伺うことができました。

それぞれの地域が、自立に向けての強い意欲を示されたことに、大いに勇気付けられたものであります。

道州制について議論を進めることは、国民をまきこんで、「究極の構造改革」を議論することに他なりません。

引き続き、道州制の導入に向けて、前向きな議論を進めていきたいと考えております。

自らの意志と力で構造改革

いま、日本経済は、確かな足どりで回復から拡大へと向かっております。「失われた10年」は終わりました。われわれはいま、新しいスタート地点に立っております。

日本経済を取りまく世界的な潮流変化に対応し、将来に立ち向かっていくために、ここで立ち止まることなく、創造的な視点をもって、自らの意志と力で構造改革に取り組まなければなりません。

そして、民間や地方の活力をさらに引き出すことを通じて、日本経済をより高い成長軌道に乗せてい

くことが重要なのであります。

政党の政策評価を引き続き実施

課題は山積しております。一つ一つの課題について、関係する多くの方々との議論を深め、実行につなげていくことを、二年目の経団連運営の規範にしたいと考えております。

経団連の政策提言が、経済界のみならず、広く国民の理解と共感を得るものでなければ、政治を動かし、真の改革を実現することはできません。

各種の政策委員会の活動をより一層、活性化するとともに、新たな体制となった21世紀政策研究所との連携を深め、経団連は、さらに強力な政策集団となることを目指します。

その際、政治と経済が車の両輪となって改革を推進していくため、政策を機軸として政治との関係をより一層、強化していく所存でございます。

あわせて、政策本位で政党への支援を高める観点から、政党の政策評価を引き続き実施するとともに、これに基づく企業の自発的な政治寄付を推進してまいります。会員の皆様方に、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

企業倫理の徹底を

最後に、企業倫理の徹底について、お願いを致します。

これまで経団連が、繰り返し、企業倫理の徹底を求めてまいりましたのは、民主導によるわが国の経済・社会の活性化を図るためであります。

すなわち、小さく効率的な政府を実現し、企業が自由に活動できる環境を整備するためには、これまでも増して企業経営者に高い倫理観が求められるからであります。

経団連では先頃、3年ぶりに企業行動憲章の実行の手引きを改訂いたしました。

そのなかで、「企業活動は、社会の信頼と共感なくして成り立たない。経営トップが先頭に立ち、社会からの批判に襟を正し、法令を遵守し、企業倫理を確立し、CSRに取り組むことが、組織存続と企業価値向上の基本であることを再確認する必要があります」ということを強調しております。

経営トップの皆様方には、社会の声を企業経営に取り入れ、社員が胸を張って生き生きと働ける環境づくりに率先して取り組まれますよう、あらためて、お願い申し上げます。

以上をもちまして、私からのご挨拶とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。



★トップ interview★



会員企業各社、トップの素顔に迫る「トップインタビュー」。第8回目は経協理事会社であります、おぼろタオル(株)取締役会長 吉川 晴^{ひとみ}さんにお話を伺うことができました。

一世紀近くタオルひとすじ “誰からも愛され快適生活を支える”

おぼろタオル株式会社 取締役会長 吉川 晴さん

～おぼろタオルの創業者森田庄三郎氏がタオルに着目をされ、辛苦の末、画期的な染色法「臙染タオル製造法」の発明に結実し、明治41年(1908年)9月10日、その特許証が下附され貴社ではこの日を会社創業記念日とされていると伺います。さらに10年後の大正7年(1918年)津市財界挙げての支援を得て、(株)臙浴巾商会として法人化され、その後、おぼろタオル(株)と改称、以来、本年で99年、明年は創業100周年という輝かしい伝統をお持ちですが、この間、第一次・第二次世界大戦、そして終戦・復興と日本の歴史が大きく動いた中で着実に成長を成し遂げてこられました。今でも記憶に残ることはどんなことですか～

何といっても「おぼろ染め」発明の偉大さです。当時津市にはこれといった産業はなく、タオル産地としては後発ながら先進地をしのぐ当県地場産業の基礎を築いたと思っています。私が入社したのは、わが国経済が高度成長期入りの頃であり、タオル業界も作れば売れる時代でしたが、そういう中でも繊維産業は、すでに紡績を始めとして各業界で黄信号がとまり始めており生活必需品のタオルも物余り時代への対処を迫られる予感ひしひしと感じておりました。昭和50年代後半には熾烈な競争時代に突入するわけですが、当時、病氣療養中であつた森田社長から後継社長の指名があり、歴史あるタオル業界の名門でもあり、私の人生で最も決断に苦慮しましたが、最後は命令ということでこれも「天命」と自らに言いかけたことです。時機をみて森田家にと再三の試みも思い叶わず振り返れば社長24年、会長2年に至りました。任期中の一番の思い出は本社工場跡地のおぼろパーキングの建設。これはタオル本業苦戦の中、モータリゼーションの到来を見越しての大型投資の断行で大変勇気のいる決断をしたものと言えます。

～会社の経営理念、工場における行動指針ならびに永年にわたり培われています「おぼろ精神」もお聞かせください～

「私は戦中っ子」でしたので、旧制津中から海軍兵学校(75期)に進学。江田島での教育は峻厳極まるもので、知・徳・体に亘る至高の訓育、陶冶により指導、強化、統率への道を学びました。これは企業における経営理念、行動指針に通ずるものがあり、創業者の「おぼろ染め」発明とその後の事業化に発露された「不撓不屈」の精神とも符号します。昭和35年刊行の社史「おぼろタオルの歩み50年」所載の創業者の発明後の試作段階における血のにじむような苦勞、そして夫人の生活を犠牲にしての資金づくりなど、創業者夫婦の決して平坦でなかったタオル事業草創期における斯業への信念こそが「おぼろ精神」と受けとめております。

～一世紀というタオル事業を通して、歴代多くの方々に親しまれてみえますが、それをつくり出す人材とその育成についても大切にされていることをお聞かせください～

江田島時代、毎日の反省と明日への目標としたものに「五省」があり、毎日最終日課で分隊毎の自習時間の終了間際、当番生徒の発声に合わせて分隊全員が(心中)唱和したものです。その「五省」は一、至誠悖るなかりしか、一、言行に恥ずるなかりしか、一、氣力に缺くるなかりしか、一、努力に憾みなかりしか、一、不精に亘るなかりしか、であり多くの企業で社訓とされ、又、英訳されて米国アナポリス海軍兵学校でも採用され、私自身、



座右の銘として人生修養の糧としているものです。上級生徒が後輩に対する日常の行動基準に「確実・迅速・静粛」や「スマートで目先が利いて几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り」もことあるごとに叩きこまれたものです。社内において「社会人としての生き方、仕事に対する考え方・自己成長のための生き方」など「人間尊重」、「人間信頼」をモットーに実施をして参りましたが、これからはもっと難しいと感じているところです。

～ご自身のご趣味又は休日の過ごし方はいかがですか～

趣味は読書・映画観賞ですが、テレビ時代を迎えて没頭する時間がなかなか作り出せないのが実情です。また、わが家は農家でしたので、先祖伝来の田や畑があり、私自身も土いじりが大好きで米づくり、野菜づくりもやっていますが、一面これが私の健康づくりの大きな支えとなっています。

～経営者協会へのご意見、ご要望がありましたらお聞かせください～

新体制のもと会員企業との連携を強め、とりわけ格差助長の時代波動に苦しむ、中小企業並びに地域の地場産業は厳しい状況なので、地域に光をあてる取り組みを踏まえ、本年度総会で決議された基本方針の項目を着実に推進していただくことを願います。

～最後に今後の抱負について考えておられることをお聞かせください～

一昨年暮れの定時株主総会で後継者として加藤勘次社長にバトンタッチ出来たことに、大きな心のやすらぎを覚えています。タオル業界は未だ氷河期の厳しさを脱しきれてはおりませんが、新社長も創業者の遺志を深く悟られており「誰からも愛され、快適生活を支えるおほろタオル」の風土を伝承されるものと確信しています。また、この度、新商品(右写真、中・下)も発表され、みなさんに喜んでいただけるタオルをこれからも永く提供させていただきまますので、よろしく願います。

◆インタビューを終えて◆

今回は、理事会社「おほろタオル(株)」取締役会長の吉川さんに、ご協力を頂きました。明治41年(1908年)9月10日、会社創業以来、明年で100周年(一世紀)という、日本の歴史が大きく動いた中で、昭和56年(1981年)社長に就任(現会長)、先代から託された会社であり、海軍兵学校時代の「五省」の精神で、ひたすら企業生命の維持・発展、社会貢献を最高目標に頑張ってきた話を伺い、久しぶりに日本人の「真心」に触れる思いがいたしました。本年、80歳を迎えられるとのことでしたが、今までにも数多くの要職を務められ、これからも、地域産業・社会の発展に向けてますますのご指導をよろしく願います。(事務局)



(特許證)



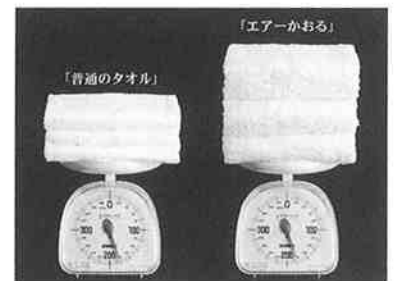
元祖おほろ染め(創業時専売特許)
名入れタオル専用の染色技法で創業者森田庄三郎の発明。文字や図柄がヨコ糸だけに染まり、何となくおほろぼげで独特の風合い。お湯につけると鮮やかに浮かびあがる。



おほろガーゼタオル(登録商標)
片面タオル・片面ガーゼの二重袋織り。40番手の細糸使用で繊細な味わい。軽く、やわらかく、乾きやすくて小ボリューム、女性の肌になじみやすいのが特徴でベビー用・お化粧用・旅行用に最適。

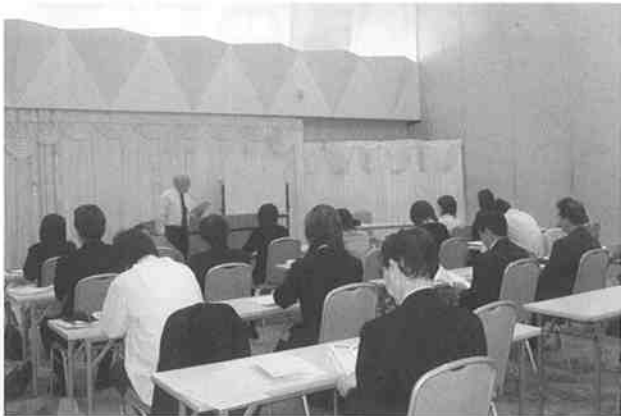


おほろレディースタオル
(男性用にはおほろメンズタオル)
おほろソフトタオルの代表格。やはり細番手糸で吸水性抜群。肌にやさしく、お風呂用にも日本人女性にピッタリの使い心地。他社の追従を許さないおほろだけの味わい。



新商品エア-かおる(特許申請中)
同じ目付け(重量)でボリュームに格段の差がありやわらかさと毛羽落ち防止を両立させた究極のタオルです。

協会事業活動報告《写真でみる4月・5月・6月》



◆4月19日(木) 労働保険実務セミナー



◆5月25日(金) 労管部会「人にやさしい雇用戦略を考える部会」



◆4月20日(金) 産官学IS懇談会・講習会



◆6月7日(木) 三重県地域労使就職支援機構総会



◆5月15日(火) 新任人事労務管理者養成講座 最終講



◆6月9日(土) インターンシップ事前研修会



◆5月16日(水) 労管部会「現場力向上をめざす部会」



◆6月15日(金) 第57回 労管コンペ(一志ゴルフクラブ)